

令和元年度第1回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要	
開催日時	令和元年9月2日（月）午後1時30分から3時30分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第19会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和元年度（平成30年度実績）評価コメントのとりまとめについて</li> <li>・今後の予定について</li> </ul>
参加者	出席者 5人 ・ 事務局 3人
開催形態	公開（傍聴人0人）
担当課	環境部 環境政策課
<b>意見等の内容</b>	
<p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p><b>（1）「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和元年度（平成30年度実績）評価コメントのとりまとめについて</b></p> <p>「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和元年度（平成30年度実績）評価コメントのとりまとめについて、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」の各指標に関する平成30年度施策実績及び担当課の自己評価に対して、各参加者からいただいたコメントを事務局で整理した。</p> <p>今回も、より多くの意見をとりまとめに反映したいと考え、【資料3】「令和元年度（平成30年度実績）評価コメント抜粋」において、参考としたい文言を箇条書きで抜粋している。抜粋したコメントの他に、とりまとめに反映していきたいコメントや重要なキーワードなどがあればご意見をいただきたい。</p> <p>会議後、ご意見を基に事務局で「とりまとめ（案）」を作成し、後日ご確認をお願いする予定である。なお、とりまとめ結果を奈良市環境審議会に報告するための資料を【資料4】「令和元年度（平成30年度実績）評価コメントとりまとめについて」に示している。こちらは昨年度から新たに作成した形式となっている。評価とりまとめ結果について、環境審議会承認を得た後、施策担当課へフィードバックするとともに、「奈良市の環境（令和元年版）」に掲載する予定である。</p> <p>各指標の評価コメント及び総括コメントについて議論いただき、担当課の自己評価に対する推進会議の評価コメントとして意見を出していただいた。</p>	

## ○質疑・意見の要旨

### <地球温暖化対策分野（シート No. 1～4）について>

#### 【No. 1】市域の温室効果ガス排出量

- ・COOL CHOICE の啓発について、他県に比べて奈良県は進んでいると聞いている。奈良市が積極的に取り組んでいるということを評価に取り入れて、奈良市の先進性をアピールしてはどうか。
- ・奈良県内で市として COOL CHOICE に取り組んでいるのは奈良市、生駒市、三郷町である。特に奈良市は、交通関係においてシェアリング自転車が普及していることから、シェアリング社会を目指すライフスタイルの転換についてアピールしても良い。
- ・COOL CHOICE、シェアリング自転車、ライフサイクルの転換をキーワードにコメントとりまとめを行っていただきたい。

#### 【No. 2】奈良市の事務及び事業における温室効果ガス排出量

- ・平成 29 年度実績で 8.5%の削減はかなり大きな成果だと思われる。耐える省エネに特化している効果が出ていると見受けられるが、今年度、学校にエアコンが設置されたことにより、今後の排出量実績は増えると思われる。今後、気候変動に耐えることと最適な環境づくりのバランスを取りながら、どう表現していくか難しい。
  - ・学校の電気使用量については、使う人とお金を払う人が異なるということが一番の問題であると思われるが、今年度、エアコンのかしこい使い方について啓発を行うとともに、モデル校においてデータ計測し、分析をする予定である。今後、特に意識して見ていく必要がある。
  - ・子どもに考えさせる教材としてエアコンを活用し、自己管理することの重要性を考えてもらう良い機会である。
  - ・国がベース基準の見直しを考えているかどうか不明だが、平成 23 年度以降新たに付加されているものが数多くある。学校現場においても IT 授業などが取り入れられ、確実に電気使用量が増える状況になっている。
  - ・増加要素をどのように削減していくかについては懸念要素として、今後令和元年度実績においてとりまとめに入れていただきたい。
  - ・現在、緩和策を主に取っているが、将来的に CO<sub>2</sub> をゼロにする対策が重要である。例えば、電気は発電者が CO<sub>2</sub> を排出しているということをきちんと認識し、再生可能エネルギーを中心として発電する事業者を選択できるような入札条件を付する必要がある。
- 奈良市も電力自由化に伴い、環境に配慮した電力調達契約評価基準について検討を行ったが、実現できなかった。市が率先して動くべきところだと思うが、財政状況もあり難

しいのが現状である。いただいたご意見は、総括コメントに入れさせていただく。  
⇒地球温暖化対策分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

#### <自然環境分野（シート No. 6～9）について>

##### 【No. 6】人工林における間伐の施業面積

・春日山原始林の保全活動を行っているが、今年は台風や大雨などがなくても木が倒れていることが多い。土壌の保水力が弱まっている。森林にはCO<sub>2</sub>吸収や保水の役割があるが、人工林だけでなく、森林全体において荒廃が進んでいるのが現状である。その原因としては、木が売れない、森林管理が出来ない、間伐が出来ない、という悪循環の結果である。市ではなく県レベルの問題かもしれないが、森林全体の状況について注視していく必要があることから、総括コメントに入れていただきたい。

- ・森林環境譲与税により山間地域と都市との交流活性化につながれば良い。
- ・地域で活動している環境団体と協力して実現できることがまだまだあるのではないか。
- ・意見抜粋に「環境保全機能を高める極めて有効な手段である」とあるように、そのことを市民と市と一緒に取り組んでいくことが重要である。

・現在と将来の2つの視点で切り分けてコメントをまとめていただくと良い。

⇒自然環境分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

#### <歴史環境分野（シート No. 10～12）について>

##### 【No. 10】奈良町（旧市街地）における伝統的建造物の保存整備事業件数

- ・伝統的建造物の保存については、京都や倉敷などを参考にして行ってはどうか。京都ではカルテを作成し京町家の継承を推進しており、企業との関わりなども進んでいる。
- ・所有者が登録有形文化財に登録して保護することになっているが、自分でお金を出して登録される方は少なく、保存が難しい状況になっている。

##### 【No. 11】なら工芸館入館者数

- ・奈良は類似施設が数多くあるため、相互の企画連携強化が重要である。

##### 【No. 12】奈良伝統工芸後継者育成研修修了者数

- ・育成期間のサポートだけでなく、修了後、持続的・継続的に仕事ができる環境整備も重要である。

⇒歴史環境分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

### <生活環境分野（シート No. 13～17）について>

- ・前年度からの進捗について、総合評価が下がっている指標はない。
- ・現状維持が求められる分野である。
- ・今後も継続した調査、環境基準の達成等を続けてほしい。

⇒生活環境分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

### <資源循環分野（シート No. 18～23）について>

#### 【No. 18】 ゴミ搬入量

- ・マイクロプラスチックによる汚染が問題となっていることから、プラスチックごみ削減のための啓発等の取組を期待したい。
- ・ごみ焼却場の建設について、収集運搬による CO<sub>2</sub> の排出は地球温暖化に大きな影響があるが、全体としてどれだけごみを減らす計画なのか、市民にはなかなか見えてこない。人口減によるごみ減量や海外生産増加による日本のごみ減量ではなく、SDGs も考慮した減量計画が必要である。環境基本計画（環境審議会）と一般廃棄物処理基本計画（清掃審議会）の横の連携が必要である。

#### 【No. 21】

- ・不法投棄監視カメラ設置による効果を報告してもらいたい。
- ・奈良市の指針で、カメラを設置する場合は「設置しています。奈良市」というような表示をすることになっているが、抑止効果があるため、大きく目立つように表示した方がよい。

#### 【No. 22】 アダプトプログラム活動団体数

- ・10年以上活動している方にポイントを付与することは、インセンティブになるため、参加意欲の増加や活動を継続する団体が増えるなどの効果が出ることを期待する。
- ⇒資源循環分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

### <都市環境分野（シート No. 24～30）について>

#### 【No. 26】 自主防災防犯組織結成率

- ・組織結成率は高く評価も良いが、高齢化による影響について対策を検討することが重要である。
- ・自治会組織率＝自主防災防犯組織結成率で終わっていると良くない。防災防犯について、しっかりと考えさせるような指標にしなければならない。

- ・実態に即した指標を設定する必要がある。

#### 【No. 27】 応急手当受講者数

- ・現状維持では良くない。受講者数をどんどん増やす必要がある。繰り返しの受講も重要であるため、何度でも受ける人をもっと増やすべきである。
- ・AED の使い方などをより多くの人に知ってもらうための啓発が重要である。

#### 【No. 30】 パークアンドサイクルライドの利用者数

- ・県バスターミナルができて、奈良公園観光の起点になっている。しかし、そこから観光客は地下道をくぐって大通りを渡り、車が走っているすぐ横の歩道を歩いて東大寺の方へ行くことになる。個々の施策は良いと思うが、全体の流れを考えて他の移動手段も含めて検討すべきである。また、ターミナルで観光客を降ろしたバスは高畑か上三橋に停めることになっている。バス会社としては不便であることから、春日大社駐車場に駐車するバスが増えている。
  - ・県の施策ではあるが、きちんとした駐車場を整備し、バスや自転車など多様な移動手段を提供し、奈良公園や旧市街に車が入らないようにするという、パークアンドライド本来の形をきちんと作ってもらいたい。
- ⇒都市環境分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

### <環境教育分野（シート No. 31～33）について>

#### 【No. 32】 市営青少年野外体験施設の利用者数

- ・平成 30 年度実績において利用者数が減少していることから、対象を高齢者まで広げることも検討してはどうか。若いころだけでなく年齢層を超えた体験が重要であり、それが質的な拡充につながっていくと考えられる。
- ⇒環境教育分野について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

### <全分野の総括について>

- ・本計画は数値で評価しているのが、概念的な計画ではなく非常に見やすい良い評価方法であると思う。今後、将来的にこの評価方法が本当に正しいのかを見極めたい。指標を取捨選択し新しいものを取り入れ、より良い評価方法について検討してもらいたい。
- ・現状に対する評価、将来展望、指標の見直しへの指針を整理するとともに、各分野で出された意見のうち総括コメントに盛り込む内容を整理しながら総括コメントとしてとりまとめていただきたい。

- ・各分野で出された意見は、以下のとおり。
- ・COOL CHOICEの推進、シェアリング社会を目指すライフスタイルの転換
- ・春日山原始林をはじめとした森林の荒廃について  
⇒全分野の総括について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

今後、いただいた意見を基に事務局でとりまとめ（案）として文章化して、委員の皆様にご確認いただく。

## （2）今後の予定について

本日までに皆さまからいただいたご意見を参考に、事務局で最終的な文章化を行い、とりまとめ結果（案）を推進会議参加者皆様へメールでお送りしてご確認いただく。その後、とりまとめ結果を環境審議会へ諮り、承認を得た後、速やかに担当課へフィードバックする予定である。次回推進会議は、1月下旬～2月初旬頃を予定している。

また、令和2～3年度に環境基本計画改訂を行うにあたり、施策評価方法を見直すための1つの例としてルーブリック評価を【参考資料】として提示させていただくので、本日、参加者皆様からご意見をいただきたい。

## ○質疑・意見の要旨

- ・ルーブリックという言葉は目新しいように感じるかもしれないが、現在の評価方法を整理するとルーブリックになるのではないかと思われる。
- ・指標については、数値で評価できるものとできないものがあることから、担当課に各指標の評価マトリクスを数値や言葉表現などで作ってもらい、自己評価してもらって、それに対する推進会議の評価を行う。
- ・ルーブリックは主に大学で実習系の評価をするために使われており、教員と学生との対話型の評価方法である。担当課との対話を整理して適切な評価方法を作っていくための参考資料になる。

以上